

PEM036-12

会場:ファンクションルームA

時間: 5月25日15:00-15:15

太陽極大期に向けた「ひので」観測と研究

Hinode observations and researches toward the solar maximum

清水 敏文^{1*}

Toshifumi Shimizu^{1*}

¹宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部

¹ISAS/JAXA

太陽観測衛星「ひので」による太陽観測は、軌道上運用開始から約3年半が経過した。世界に開かれた軌道上天文台として、他ではできない観測を行い、様々な科学的成果を出し続け、現在世界の太陽観測をリードしている。この期間、太陽活動は大幅に予想を超えた期間にわたり静穏でありつづけ、軌道上運用開始直後(2006年終わりから2007年上半年期)を除き、静穏領域を中心とした観測を行ってきた。静穏領域でも、予想を超えたダイナミックな現象に満ち溢れ、太陽磁場やコロナ大気の新しい知見が得られてきた。また、宇宙天気環境と直接的な結びつきがある太陽風に関して、その流源に関する観測研究で大きな進展が得られている。やっと2009年終盤から太陽活動の上昇が見られはじめ、今後「ひので」の観測は、活動領域や太陽フレアの観測に重心を移して行われる。2008年春以降、「ひので」の観測は通信系障害により取得できる観測データ量に制限が付いているが、様々な運用の工夫で、今までに遜色ない観測ができるようになっていいる。最近現れた活動領域では、数日にわたり磁場の成長・発展の様子を連続的に捉えるような観測も成功している。活動領域の磁場発展の高解像度観測に加え、同時にコロナの観測を行い、太陽フレアの発生の理解に向けた観測研究が大きく発展することに期待している。。講演では、「ひので」の観測研究の現状を紹介し、太陽極大期に向けた「ひので」観測について説明する。

キーワード:ひので,太陽観測

Keywords: Hinode, Solar Observations